

(中学国語科)

郷土の文学に誇りを持たせる国語科学習の工夫

— 郷土文学「琉歌」の教材化を通して —



浦添市立教育研究所 教育研究員

浦添市立浦西中学校 金城光明

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	目指す生徒像	2
III	研究の目標	2
IV	研究の仮説	
1	基本の仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	
1	琉歌の研究	3
2	指導の工夫	3～5
VII	授業実践	
1	単元名	6
2	単元設定の理由	6
3	教材選定の視点	6～7
5	学級の実態	7～8
6	指導計画	8～9
7	評価	9
8	授業指導案	10～16
VIII	研究の考察	
1	作業仮説の検証	17
IX	研究の成果と課題	
1	研究の成果	19
2	研究の課題	19
	おわりに	
	引用・参考文献	

郷土の文学に誇りを持たせる国語科学習の工夫

—郷土文学「琉歌」の教材化を通して—

浦添市立浦西中学校 金城 光明

【要約】

本研究は、郷土文学「琉歌」の学習を通して、郷土の文学に興味を持たせ、その文学に誇りを持たせることを目指した授業の工夫を試みたものである。そのために「琉歌」を教材化することにより、先人の生き方や感じ方から自己を見つめさせ、郷土の文学を尊重し、誇りを持つ生徒の育成を目指した。

授業実践では、身近な地域の琉歌を取り上げ現地学習、体験的な学習で意欲関心を高め、視聴覚教材の活用、創作琉歌の交流会を行うことによって、郷土の文学に興味・関心を持たせることができた。

キーワード

□現地学習 □琉歌教材 □視聴覚教材 □音読・朗読 □創作琉歌

I テーマ設定の理由

現在、我が国の社会では、国際化、情報化、少子・高齢化、科学技術の進歩など社会変化が急速に進展している。そんな中、完全週5日制の実施及び、中学校における新学習指導要領の全面实施の下、地域や生徒の実態に応じた特色ある教育課程を編成し、生徒に「生きる力」を育成することが求められている。

国語科の目標は、「国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語力を尊重する態度を育てる」である。つまり、生きる力は「伝え合う力」の育成を重視することによって、他人と協調しながら国際社会に生きる豊かな人間性や社会性をもった日本人としての自覚を養うことをねらいとしたものとなっている。

中学校学習指導要領国語科においては、「C読むこと」の領域で「我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること」、「我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てる」、「人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てる」とある。また、県教育主要施策の中に「国及び郷土の自然と

文化に誇りをもち、創造性、国際性に富む人材の育成」、「自ら学ぶ意欲を育てる」、「郷土文化の継承」がある。

郷土沖縄には、方言を使って詠む「琉歌」がある。以前、和歌の授業の中で郷土沖縄の定型詩（琉歌）を紹介したがクラスによっては、9割近くの生徒が琉歌を知らないという結果が出た。また、方言については聞き取りはできても使うことは、ほとんどの生徒ができないという結果も出た。生きた文化である「方言」が消えつつあるのではと危惧される。本土文学（本土古典）が教材として取り上げられ古典教材としての地位が確立されてきた反面、沖縄独特の文学が地域の子供達に理解されていない。つまり、郷土の良さを知りそれを世界に発信できる心豊かな子供達を育てることが、国際化に対応した現代社会に必要なことではないかと考える。

「琉歌」は、沖縄特有の文学としてその時代の思想・感情を和歌よりも短い歌の中に豊かに読み込んでいる。その琉歌を読み味わうことによって、郷土の言語文化をより身近なものとしてとらえ、先人の生き方や感じ方から、自己の生き方をみつめさせることによって郷土の文学を尊重し、誇りを持つ心が育つと考え本テーマを設定した。

Ⅱ 目指す生徒像

地域の文化や伝統を尊重するとともに自分のものの見方・考え方をみつめることができる生徒。

Ⅲ 研究の目標

郷土の文学に誇りを持たせるために琉歌を教材化し、体験的な学習と視聴覚教材を活用した授業の工夫及び、指導方法を研究する。

Ⅳ 研究の仮説

1 基本仮説

郷土文学「琉歌」を教材化し、体験的な学習と視聴覚教材を活用した授業を展開することにより地域の文化や伝統に興味関心が高まり、先人の生き方・感じ方から郷土の文学に誇りを持たせる

ことができるだろう。

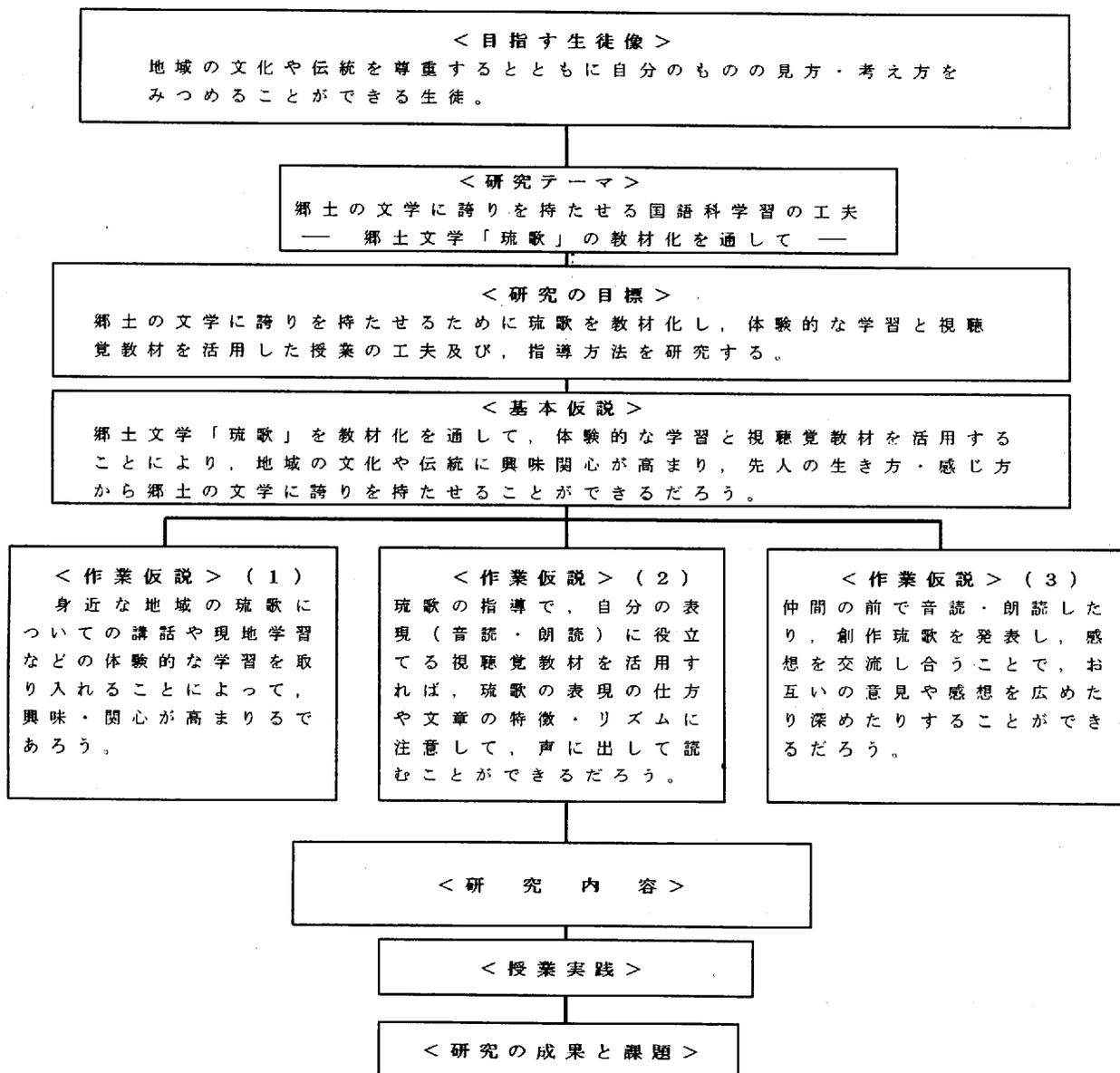
2 作業仮説

(1) 身近な地域の琉歌についての講話や現地学習などの体験的な学習を取り入れることによって興味・関心が高まるであろう。

(2) 琉歌の指導で、自分の表現（音読・朗読）に役立てる視聴覚教材を活用すれば、琉歌の表現の仕方や文章の特徴・リズムに注意して、声に出して読むことができるだろう。

(3) 仲間の前で音読・朗読したり、創作琉歌を発表し、感想を交流し合うことで、お互いの意見や感想を広めたり深めたりすることができるだろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 琉歌の研究

(1) 琉歌とは

8・8・8・6を基本とした短詩型の歌曲のことを「琉歌」という。

5・7・5・7・7の本土の和歌に対比しての名称である。琉歌は、三線と密接にかかわって発達してきた。琉歌は「詠む歌」としての和歌とは異なり、主として「謡う歌」として発展してきた。元来、古謡の「おもろ」から出たもので、8・8を基調として、その句を長く重ねていく形が、14～15世紀ころ、中国伝来の三線（三味線）が伴奏に用いられることなどから、次第に4句目で短く切って終わりを6音でとどめる形に展開していったものと思われる。

(2) 種類

琉歌の歌は形式上、琉歌・つらね・木遣り・口説に分類されている。

琉歌は、さらに短歌・仲風・長歌の3つに分けられる。

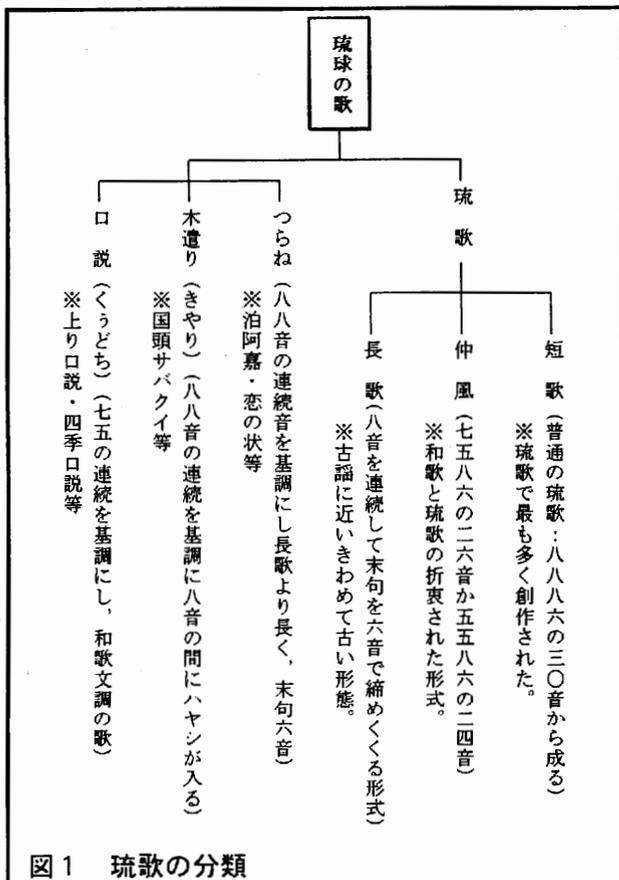


図1 琉歌の分類

(3) 内容

内容は、恋歌、四季歌、豊作祈願歌、国王讃歌、旅歌、教訓歌などがある。中でも圧倒的に恋歌が多く、8・8・8・6音の形式が個人の抒情を述べるのに適した音数律であったことに関係があったと思われる。

(4) 作者

作者は、上は国王・氏族から、下は農民・遊女に至り、各層の人々に詠まれ親しまれている。数多い琉歌の歌人の中でも「吉屋チル」「恩納なべ」はよく知られている。

この二人の歌は今でも多くの人から親しまれている。

2 指導の工夫

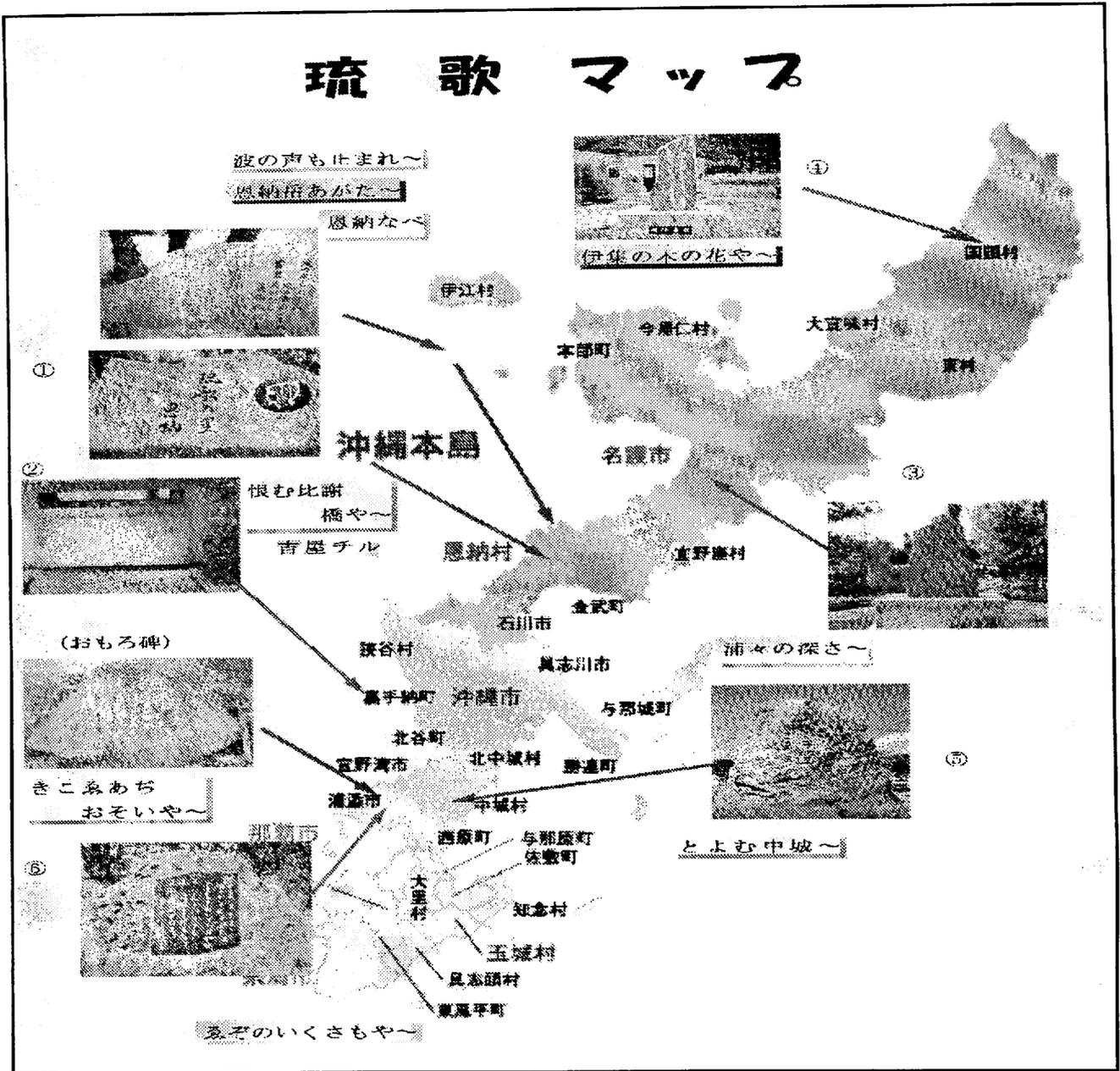
琉歌は、生活の中で身近な存在ではない。さらに、生徒は方言が使えないという現状の中で郷土文学（琉歌）を授業で取り扱うにあたり、生徒の意欲や学習効果を高めるために、次のような学習の工夫を行う。

- (1) 生徒の興味・関心を高めるために現地学習を取り入れる。
- (2) 距離的に現地学習が不可能な場所は、教師が編集・制作したビデオ教材を利用する。
- (3) 教材に対するイメージを高め、理解を深めるためにビデオ、プレゼンテーションソフト、テープ、琉歌マップ（写真1）などの視聴覚教材を活用する。
- (4) 琉歌読みのテープを作成し、そのテープを聞かせることにより、琉歌のリズムや表現を味わわせ、理解につなげる。
- (5) 生徒各自に琉歌を創作させ、それを全体の場で発表させることにより、創作する喜びや満足感を得させる場を設定する。
- (6) 琉球歌加留多を活用し、他の琉歌に触れさせる。

4 指導の工夫 (指導計画)

工夫項目	指導内容	指導効果	指導上の留意点・その他
1, 現地学習 (第1次)	・おもろ碑のある場所 でおもろについて学 習する。	・興味・関心を高める	・現地で行う。 ・地域の王を讃えた歌だということ を知らせる。
2, 視聴覚教 材の活用 (第1次) (第2次) (第3次) (第4次)	・視聴覚教材を活用 し、イメージ化を図 るとともに理解に役 立てる。 ・琉歌は和歌と違い、 謡う歌が多いことを 学習する。 (三線を活用)	・時代の背景、当時の 様子を知る。 ・和歌とは違った琉歌 の特徴を理解する。 (表記・形式・読み方) など ・琉歌を身近なもの としてとらえる。	・ビデオ (DVDに編集) (琉歌の世界) ①琉歌とは ②琉歌の形式 ・テープ (6首の琉歌読みのテープを作成) ・写真 (現地にて撮影) (6首の琉歌碑) ※プレゼンソフト ・三線 (てんしゃごの花) ※三線にあわせて歌う
3, 音読 (第2次) (第3次) (第4次)	・琉歌を音読。	・リズムや表現を味わ い、理解につなげる。	・方言の読み方について指導する。 ・表記と読みが違うところに注意して 読む。
4, 琉歌創作 (第5次)	・琉歌を創作する。 ・交流学習。	・創作する喜びや満足 感を得る。 ・琉歌を身近なもの としてとらえる。	・琉歌の形式に合わせた現代語での創 作。(自宅へ持ち帰り方言に直す) ・学習した6首をアレンジしての創 作。
5, 加留多 (第6次)	・琉球歌加留多大会を 行う。(グループ)	・リズムや表現を味わ うことができる。 ・学習した琉歌以外に 触れることができる	・加留多についてのルール の指導。 ・読み手は大きな声で、読み上げる指 導。

(1) 琉歌マップ (写真1)



(2) 琉歌紹介カード

琉歌碑 ①

ウチナキ アガタ
サトウカ マシマ
恩納岳あがた 里が生まれ島
ムラウツ
ネエラ
クカラ オチナ
もりもおしぬけて こがたをさを
恩納なべ

琉歌碑 ②

ウチナキ フリヤシヤ
ナチキナ フリトウ
懐む比謝橋や 情きん人の
ウチナキ フリトウ
カチヤ
ウチナキ
我ん深さともて 糸きておらやら
吉屋チル

Ⅶ 授業実践

郷土の文学に誇りを持たせる国語科学習の工夫
—郷土文学「琉歌」の教材化を通して—

1 単元名

郷土単元「琉歌の世界」 第2学年

2 単元設定の理由

中学校学習指導要領国語科の「読むこと」領域において、「我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること」「我が国の文化や伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てる」「人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てる」とある。そのことを踏まえて、生徒の住む地域の言語や文学を取り入れることはとても有意義なことである。また、本校生徒は、文化財や地域の史跡等についてもごく身近な範囲しか知らない。地域の伝統文化に興味を持ち、その価値を認識することによって、郷土愛を育て、それに誇りを持たせるために、我が郷土文学である「琉歌」を、学ぶことは意義深きことだと考える。県教育主要施策の中でも「国及び郷土の自然と文化に誇りを持ち、創造性・国際性に富む人材の育成」「郷土文化の継承」とある。現在我が国では、「国際化」が提唱されている。しかし、おのような時代だからこそ、郷土を知りその良さを発信できる心豊かな子ども達を育てることが国際化へのと向かう現代社会に必要なことではないかと考える。

「琉歌」という沖縄特有な文学を学ぶことによって郷土の言語文化をより身近なものとしてとらえ、先人の生き方から自己の生き方を見つめさせることによって、郷土の文学を尊重し、誇りを持つ生徒の育成を図りたい。

尚、今回は、「手さぐりの中の実践であり」、生徒に郷土を見つめさせるきっかけとなればという事で、琉歌のリズムに慣れるための音読や暗唱を取り組んだり、歌の表現を味わうことを目的

として研究を進めていきたいと考えている。

3 教材選定の視点

(1) 教材選定の観点

「琉歌」という沖縄特有な文学を学ぶことによって郷土の言語文化をより身近なものとしてとらえ、先人の生き方から自己の生き方を見つめさせることによって、郷土の文学を尊重し、誇りを持つ生徒の育成を図りたい。

生徒に郷土を見つめさせるきっかけにするために、琉歌のリズムに慣れるための音読（個人・グループ）や歌の表現を味わうことを目標として、下記の観点で琉歌を選定する。

- ① 現在でも多くの人々に親しまれている琉歌
- ② 沖縄の歴史や社会に触れ、先人の生き方・考え方・習慣がわかる琉歌
- ③ 内容が中学生の理解力や興味に即したわかりやすい琉歌。
- ④ 沖縄の自然が盛り込まれ、生活感情に触れる琉歌。

(2) 教材

- ① 恩納岳あがた 里が生まれ島
もりもおしのけて こがたなさな
(恩納なべ)【写真1の①】

【歌意】恩納岳の向こうは、我が愛する人の生まれた場所である。あのじゃまな恩納岳を押しつけて、恋人の村をこちら側に引き寄せたい。

【解説】恩納なべは、王府時代の代表的な女流歌人のうちの1人である。山原地方の恩納で生まれたナビーは、自由で伸び伸びした恩納女性として育ってきた。

当時は、恋愛など自由にできる時代ではなかった。しかし、恋心を率直に表現し、当時の社会では女性が表現できないことを歌っている。

上記の歌は、ナビーの歌の中でも特に知られている歌である。(なべの歌は全部で16首)

② 恨む比謝橋や 情無ん人の

我ん渡さともて 架きておちやら
(吉屋チル)【写真1の②】

【歌意】この恨めしい比謝橋は、いったい誰が架けたのであろう。おそらく無慈悲な薄情者が、この私を渡そうと思って架けたのであろう。

【解説】恩納なべと並んで女流歌人で有名なのが吉屋チルである。この歌は、わずか7歳か8歳の時遊郭に売られ、彼女が父親に連れられ比謝橋を渡ったときの歌である。

彼女の歌の中でも最も有名である。天才的な歌人としてのチルは、16～17歳には、仲島の名花といわれ首里の身分の高い侍たちも通うようになったといわれる。しかし、恋も引き裂かれ、彼女は悲しみにうちひしがれ、絶食をしてついには18,19歳で生涯を閉じたのである。

③ 浦々の深さ 名護浦の深さ

名護のみやらびの 思いの深さ
(読人知らず)【写真1の③】

【歌意】深く美しい浦はたくさんあるが、名護の湾が一番である。しかし、それにもまして、名護の乙女は愛情が深くすばらしい。

【解説】人の美しさは、その住む土地の自然に影響されるとすれば、山紫水明の名護の娘たちが美しいのも自然である。美しくてその上、愛情が深いとすれば、鬼に金棒、弁天様に暖かいハートということになる。「白い煙と黒い煙」で有名な名護は、非常に人情が美しいように思われる。

④ 伊集の木の花や あんきよらさ咲きゆり

わぬも伊集のごと 真白咲かな
(読人知らず)【写真1の④】

【歌意】伊集の木の花は、あんなにきれいに咲いている。わたしも伊集の花のように真白に美しく咲きたい。

【解説】この歌については哀れな伝説がある。いつの時代だったか、ある国王の愛妾の中に容姿

端麗な美女がいて、王はその美女をこの上なく愛して、毎夜その美女の部屋にのみ通われた。そこで王妃が、その美女をうらやましく思ってこの歌をよんだという。

⑤ とよむ中城 よしの浦のお月

みかげ照り渡て さびやないさめ
(国頭親方朝斎)【写真1の⑤】

【歌意】評判の高い中城城跡から眺めると、よしの浦の月が美しく照り輝いて、この天下は平和に円満に治まり、何のさわりも災難もあるまいと思われる。

【解説】中城城は、昔護佐丸が阿摩和利の反逆に備えて、守りを堅くした所であるが、阿摩和利がざん言をして首里の王兵とともに攻めてきて剣戟の響きがはげしく鳴りはためいたことがあった。しかしいまは世の中が平静になり、月の光もまどかに照り渡って、何のさわりもわざわざあるまいと思われて、無量の感慨が湧くのおぼえる。※歌意・解説は琉歌大観より引用

⑥ 伊祖のいくさもり 夏しげち冬や

お酒もてよらて 遊びめしやうち
(読人知らず)【写真1の⑥】

【歌意】英祖王は、夏が過ぎて冬になると、酒盛りをされて、大勢の部下と寄り合ってお遊びになった。

【解説】英祖王は琉球史上で、第2の革命を起こした王で、武勲をたてた部下たちと共に、夏も冬も宴会を開いたときの歌である。しかしある人が、しげちは征伐ということで、夏は従わない者を征伐して、冬は祝宴を開いたという風に解釈しているのをみたおぼえがある。はたしてどんなものか。

5 学級の実態

明るく元気な生徒が多い学級である。しかし、発言力は低く女子の5～6名の生徒が声を出すのみである。与えられたことは素直に受け入れるが、

疑問をもったり、質問したり等の課題を追求しようとする意識は弱い。

1, 2学期のテストにおいて男女の平均点の差は10点以上もあり、成績の上位も女子が占めている。

そこで、男子や意欲が低い生徒にも意識をもって楽しく授業に参加させるために一斉学習の中にグループ学習を取り入れた。音読やワークシート

をグループで協力し、相談して助け合うことによって、これまで途中で問題を投げ出していた生徒にも少しずつではあるが学習に対する意欲が芽生えてきた。

今回、身近な郷土教材を取り入れ、興味・関心を高めるよい機会と考える。身近な文化に触れることによって、郷土の文学を尊重し、誇りをもつ生徒へとつなげたい。

6 指導の実際

(1) 学習指導計画 (6時間)

時 間	学 習 内 容	活 用 教 材	評 価
1 時	①現地学習（琉歌の母胎であるおもろの学習を兼ねて、正門横にあるおもろ碑を使って動機付けをする。） ②琉歌について（琉歌の発生・種類など）	・おもろ碑 (英祖王) (仮説1) ・資料1の① ・ビデオ(DVD) (琉歌の世界)(仮説2) ・資料1の②	・意欲・関心・態度
2 時	①琉歌は歌・踊り・三味線が一体になって伝えられたものが多いことを知る。 ②琉歌「てんしゃごの花」を使って、琉歌の形式や表記・読み方（音読）などを理解する。 ③沖縄の方言の特色や共通語との対応の仕方などについて理解する。	・三味線 (てんしゃごの花) ・資料2の① ・ワークシート2の① ・プレゼンソフト (仮説2)	・音読(仮説3) ・ワークシートの記入
3 時	『検証授業』 ①琉歌3首がすらすら読めるまで音読練習をする。 ②琉歌碑の紹介 ③琉歌(3首)の紹介 ④琉歌読みの紹介 ⑤グループで琉歌3首の意味(歌意)を考える。 ⑥琉歌3首の意味(歌意)の解答。	・資料3の① ・プレゼンソフト ・ビデオ(3首) ・テープ ・ワークシート3の① ・プレゼンソフト (仮説2)	・音読(仮説3) ・意欲・関心・態度 ・ワークシートの記入 ・音読(仮説3) ・ワークシートの記入

4 時	①琉歌3首がすらすら読めるまで音読練習。 ②琉歌3首の意味(歌意)を考える。 ③その他の関連した琉歌の紹介。 ④琉歌創作の方法について理解する。 ⑤琉歌の創作(課題)	・資料3の① ・ワークシート4の① ・資料4の① ・ プレゼンソフト ・資料4の② ・ プレゼンソフト	・ワークシートの記入
5 時	①創作琉歌の交流会(グループ) ②グループ代表の発表	・ワークシート5の①	・ワークシートの記入 ・ 創作琉歌(仮説3)
6 時	①琉球歌加留多についての説明。 ②琉球歌加留多大会(グループ対抗) ③琉歌のまとめ	・ビデオ (仮説2) ・琉球歌加留多	・加留多大会結果から

(2) 評価の規準

学習材名		配当時間	学習の重点目標		
琉歌の世界		6 時間	<ul style="list-style-type: none"> ・琉歌に描かれている世界を豊かに想像し味わう。 ・琉歌独特の言葉遣いやリズムをとらえる。 		
観 点	読 む 能 力	評価の規準	評価方法	評価の規準の具体例	
		<ul style="list-style-type: none"> ・琉歌独自の表現の仕方や琉歌の特徴について学習し、注意して読んだり、朗読したりしている。 	(朗読)	B 琉歌独自のリズムを感じ取り、音読することができる。 A 琉歌独自の言葉遣いやリズムから情景や作者の心情をとらえ、音読することができる。 C 琉歌独自のリズムに慣れるよう教師の範読に続いて音読ができる。	
観 点	関 心 意 欲 態 度	<ul style="list-style-type: none"> ・琉歌独自の言葉遣いやリズムなどに関心、興味をもち、琉歌に親しもうとしている。 	(ワークシート) 自己評価	B 繰り返し音読して、琉歌のもつリズムを感じ取ろうとしている。 A 音読を通して、琉歌読みに慣れ、琉歌独自の言葉遣いやリズムをとらえようとしている。 C 録音したテープを聞きながら琉歌独自のリズムに慣れようとしている。	

第1時

1 本時の目標

- ① 「現地学習」(おもろ碑)を訪ね、琉歌の母胎であるおもろについて理解するとともに碑に書かれている英祖王について知る。
- ② 「琉歌」のビデオを鑑賞することにより、琉歌の意味・形式を理解する。

2 本時の展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認(現地集合) 1, 本時の目標の確認をする。 2, 授業の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の健康状態をチェックする。 ・学習の目的をもって授業に参加することで、興味関心を持って授業に向かわせる。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 3, 「おもろ碑」についての説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・おもろについて ・英祖王について 4, おもろ碑を読む。(おもろ碑) <ul style="list-style-type: none"> ※視聴覚室へ移動 5, 現地学習したことの再確認 (おもろについて) 6, ビデオ鑑賞(琉歌の世界) 7, 琉歌について 	<ul style="list-style-type: none"> ・琉歌学習の動機付け <ul style="list-style-type: none"> ※資料1の① ・おもろと琉歌のつながりを理解させる。 ・時代背景についても理解させる。 ・資料を目で追いながら確認させる。 ・急ぎ足で移動する。 ・現地学習したことをもう一度、資料1の①で確認する。 ・琉歌の基本的なことを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ※ビデオ ・琉歌の形式、種類などを理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> ※資料1の②
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 8, 本時のまとめ 9, 次回の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り発表させる。 ・琉歌の特徴や方言を学ぶことを知らせる。

3 評価

- ① おもろについて理解し、琉歌に興味・関心を持つことができたか。
- ② 琉歌の形式について理解することができたか。

4 結果(生徒の感想から)

- ① 正門横の碑が「おもろ」であることを知り、びっくりした。
- ② 「おもろ」から「琉歌」への文学の流れが理解できた。また、琉歌の形式も理解できた。
- ③ 琉歌に触れるのははじめてなので、これからの授業が楽しみだ。

5 考察

生徒は、校内にあるおもろ碑に触れる現地学習を通して「これからの琉歌が楽しみだ」と授業への興味・関心が高まった。

(ビデオ鑑賞)



第2時

1 本時の目標

- ① 沖縄方言の特色と共通語の対応の仕方について理解する。
- ② 琉歌の形式や表記、読み方などの特色を理解する。

2 本時の展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・出席確認 1, 前時の復習 2, 本時の目標の確認。 3, 授業の流れの確認。	・一人一人の健康状態をチェックする。 ・前時のおもろ、琉歌の復習をする。 ・学習の目的をもって授業に参加することで、興味・関心を持って授業に向かわせる。
展 開	4, 琉歌と三線との関わりについて 5, 「ていんさぐぬ花」の歌を朗読し、意味を確認する。 ①読み方の確認 ②範読 ③個人朗読（指名読み） ④グループ朗読 6, 沖縄の方言の特色を理解する。 ①母音の説明 ②練習問題（プラス点）	・良く耳にする「てんしゃごの花」を三線でひき、琉歌には謡う歌が多いことに気づかせる。 ・琉歌の読み方、意味を理解する。 ・表記と違うところに注意してすらすら読めるようにする。 ※資料2の①  (琉歌のリズムを三線の音色に合わせる) ・沖縄方言への興味づけのために。 ・表記と発音の違いのあることを気づかせる。 ※ワークシート2の① ※プレゼンソフトの活用
ま と め	7, まとめの音読を する。（一斉）  8, 次回の予告 （一斉音読）	・大きな声でリズムよく、すらすら読めるようにする。 ・次回学習する琉歌3首を紹介する。

3 評価

- ① 琉歌の読み方の基本を理解し読むことができたか。
- ② 共通語と沖縄方言の母音の対応の仕方が理解できたか。

4 結果（生徒の感想から）

- ① 8・8・8・6というリズムが三線にあわせたり、声に出して何度も読むことで、楽しく感じた。
- ② ていんさぐぬ花が琉歌だと知り、こんな身近に琉歌があったんだなあと思った。
- ③ 方言読みは難しいけどもっとうまく読めるように頑張りたい。

（琉歌の一斉読み）



5 考察

琉歌の節を三線に合わせて詠んだり、日頃良く耳にする「ていんさぐぬ花」が琉歌だと知った驚きから、琉歌への興味・関心が沸き、自ら進んで声に出して読む姿がみられた。

第3時（検証授業）

1 本時の目標

- ① 琉歌を繰り返し音読し、琉歌のリズムや表記に慣れさせる。
- ② 3首の歌意をまとめることができる。

2 本時の展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認 1, 前時の復習 2, 本時の目標の確認。 3, 授業の流れの確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の健康状態をチェックする。 ・「てんしゃごの花」の一斉読みをする。 ・学習の目的をもって授業に参加することで、興味・関心を持って授業に向かわせる。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 4, 「恩納岳あがた」, 「恨む比謝橋や」 「浦々の深さ」までの3首の歌を読み 味わう。 ① 8 8 8 6 に句切る ② 範読読み ③ 一斉読み ④ グループ交流（練習→発表） 5, 3首の歌意をまとめ。 （グループ学習） 6, 歌意の発表 7, ビデオ鑑賞（3首） 8, 琉歌碑の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・表記と読みが違うところに注意してすらすら読めるようにする。 ※プレゼンソフトの活用 ・3首の歌を 8886 に句切る。 ※ワークシート3の① ・みんなに聞こえるように大きな声で歌意を読む。 （琉歌の個人読み） ・ワークシートに書いてある意味を参考してまとめさせる。 ・3首の歌のイメージを膨らませるのに役立つ。 ※ビデオ, プレゼンソフトの活用
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 9, まとめの音読をする。 （一斉読み） 10, 次回の予告 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声でリズムよく、すらすら読めるようにする ・次回学習する琉歌3首の読と歌意を学習することを知らせる。

3 評価

- ① 繰り返し音読することで、琉歌の読みやリズムに慣れることができたか。
- ② 琉歌3首の歌意をしっかりとまとめることができたか。

（歌意のまとめ）

4 結果（生徒の感想から）

- ① それぞれの琉歌にリズムがあり、少ない字数の中に奥が深いなあと感じた。
- ② テープで聞いた琉歌読みに少しでも近づけるように練習したい。
- ③ ビデオを見て、読まれた時代や風景・場所がわかり、作者の歌に込めた思いがよく理解できた。



5 考察

ビデオやテープなどの視聴覚教材を多様に活用し、個人読みやグループ読みなどの音読を組み入れることで、大きな声で琉歌を読む姿が見られた。

第4時

1 本時の目標

- ① 琉歌を繰り返し音読し、琉歌のリズムや表記に慣れさせる。
- ② 創作の方法を理解し、琉歌を創作する。

2 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認 1, 前時の復習 2, 本時の目標の確認。 3, 授業の流れの確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の健康状態をチェックする。 ・前時学習した3首の一斉読みをする。 ・学習の目的をもって授業に参加することで、興味・関心を持って授業に向かわせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 4, 「伊集の木の花や」、「とよむ中城」「伊祖のいくさ」の3首の歌を読み味わう。 ① 8 8 8 6 に句切る。 ② 指名読み (2, 3人くらい) ③ 琉歌碑の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・表記と読みが違うところに注意してすらすら読めるようにする。 ※プレゼンソフトの活用。 ・前時同様、読みのイメージ化へ役立てる。  <p style="text-align: center;">(読みの個人練習)</p>
閉	<ul style="list-style-type: none"> 5, 3首の歌意をまとめる。 6, 歌意の解答 7, 琉歌創作の方法について説明する。(注意点など) 8, 琉歌の創作 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いてある言葉の意味を参考にしてまとめさせる。 ・大きな声で解答させる。 ・今回は、琉歌の形式にあわせた現代語創作琉歌とする。(方言を入れてもよい) ・今回学習した6首をアレンジしてもよい。 ・時間内でできない生徒は宿題とする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 9, まとめの音読をする。(一斉) 10, 次回の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声でリズムよく、すらすら読めるようにする ・創作した琉歌の交流会を行うことを知らせる。

3 評価

- ① 繰り返し音読することで、琉歌の読みやリズムに慣れることができたか。
- ② 創作の方法を理解し、琉歌を創作することができたか。

4 結果 (生徒の感想から)

- ① 声に出して読むことがはじめ難しかったけど、友達に教えてもらい、何度も声に出して読んでいくといつの間にか読めるようになっていた。
- ② 方言で琉歌を作らなくても、8・8・8・6の形式に現代の言葉をあわせて、琉歌を作ることができるんだなあと思った。今度は、方言で作りたいと思った。

(琉歌の創作)



5 考察

何度も声に出して琉歌を楽しみながら読むことから、琉歌創作へ意欲的につながった。琉歌の定型(8・8・8・6)に合わせて言葉を探す生徒の姿が見られた。

第5時

1 本時の目標

- ① 交流会を通して、自分なりの「読み」を深めることができる。
- ② 他者の伝えようとする思いや考えをしっかりと聞くことができる。

2 本時の展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認 1, 前時の復習 2, 本時の目標の確認。 3, 授業の流れの確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の健康状態をチェックする。 ・前時学習した3首の一斉読みをする。 ・学習の目的をもって授業に参加することで、興味・関心を持って授業に向かわせる。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 4, 交流会についての説明 (グループ単位で行う) ①交流会の進め方 ②評価の仕方 ③グループ代表の決定 5, 各グループ代表の発表(6人) 6, 発表を聞いての感想をまとめる。 7, 創作琉歌の紹介 ①教師が創作した琉歌 ②恩納村琉歌大賞作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会の指示で交流会がスムーズに進められるようにする。 ・発表が終わったら評価表に記入する。 ・グループで話し合い、代表を1人選出。 ・大きな声で、リズムよくすらすら読めるようにする。 ・ワークシート(評価表)に記入する。 <div style="text-align: right;">  <p>(グループ発表)</p> </div> <div style="text-align: right;">  <p>(創作琉歌代表の発表)</p> </div>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・創作琉歌の読み(2首くらい) ・次回の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で、リズムよくすらすら読めるようにする ・琉球歌加留多大会をグループ対抗で行うことを知らせる。

3 評価

- ① 交流会で自分なりの「読み」をすることができたか。
- ② 他者の伝えようとする思いや考えをしっかりと聞くことができたか。

4 結果(生徒の感想から)

(創作琉歌の発表)

- ① 交流会では、それぞれの個性が出ていてとてもよかったと思う。
 - ② 友達の伝えたいことや思っていることが琉歌を通してよくわかった。
 - ③ みんなの琉歌が聞けてとても楽しい授業だった。代表者6名の発表は読みもリズムがあつてとても素晴らしかった。
 - ④ 自分で作った現代風琉歌を方言に直してみたいと思った。もっと沖縄の方言を知りたい。



第6時

1 本時の目標

- ① 琉球歌加留多大会（読み手・取り手）として、これまで学習してきたことを生かす。
- ② これまで学習した琉歌6首を朗読し、読み味わう。

2 本時の展開

時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	・出席確認 1, 前時の復習 2, 本時の目標の確認。 3, 授業の流れの確認。	・一人一人の健康状態をチェックする。 ・交流会評価表をもとに反省。 ・学習の目的をもって授業に参加することで、興味・関心を持って授業に向かわせる。
展 開	4, 琉球歌加留多についての説明。 ①琉球歌加留多とは ②遊び方（ルール） 5, 琉球歌加留多大会（1試合7分） （グループ対抗） ①A対B（Cは読み手） D対E（Fは読み手） ②ABの勝者対C DEの勝者対F ③決勝戦（並行して最下位決定戦） 6, 琉歌のまとめ ①琉歌の（種類、形式）など ②6首の一斉読み	・読み手、取り手について説明する。 ・ルールに従って、大会を進める。 ・読み手は大きな声で、すらすらリズムよく読めるようにする。 ※負けチームは、読み手（交代ずつ）  (加留多大会) ・これまで学習してきたことが理解できたか確認。 ・学習した6首の琉歌がすらすらリズムよく読める。
ま と め	7, アンケートの記入 8, 次回の予告	・琉歌の授業を終えての感想をまとめる。 ・次の時間から教科書を使った授業にもどることを知らせる。

3 評価

- ① 琉球歌加留多大会を楽しむことができたか。
- ② 琉歌6首を読み味わうことができたか。

(加留多大会の読み手)

4 結果（生徒の感想から）

- ① 加留多大会、とても楽しかった。機会があったらまたやりたい。
- ② 読み手の時、習ったことのない琉歌がいっぱい出てきたので苦勞した。
- ③ テープで聞いた、琉歌読みに少しでも近づけるようにがんばって読む努力をした。でも琉歌読みは難しい。
- ④ 習った琉歌は6首だったけど、最初の頃の読みよりうまく読めるようになったと思う。



5 考察

その他の琉歌に触れる発展的学習として、琉球加留多を取り入れた授業において、意欲的に声を出し琉歌のリズムを楽しむ姿が見られた。また、沖縄方言にも興味を持ち始めた。

VII 研究の考察

1 作業仮説の検証

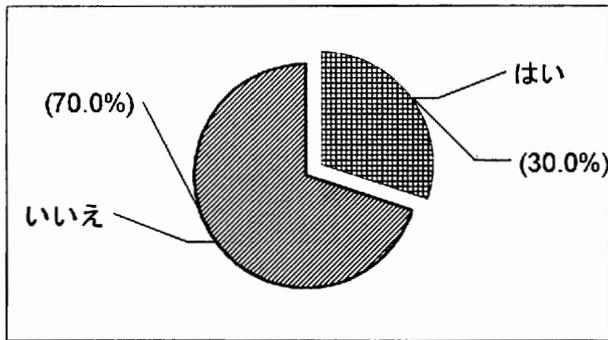
(1) 作業仮説 1

身近な地域の琉歌についての講話や現地学習などの体験的学習を取り入れることによって、興味・関心が高まるであろう。

① 結果

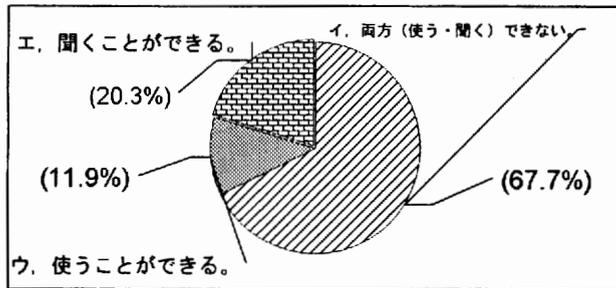
ア 事前アンケート (グラフ1)

「あなたは琉歌という言葉を知っていますか。」



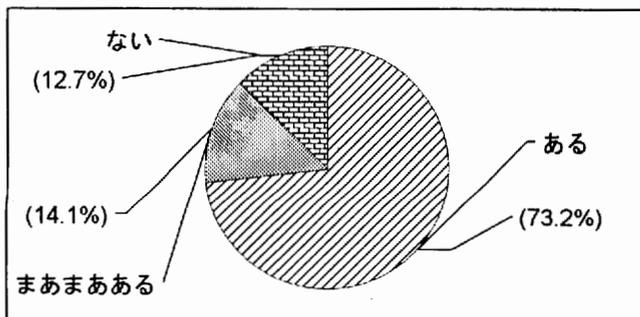
イ 事前アンケート (グラフ2)

「あなたは方言を使えますか」



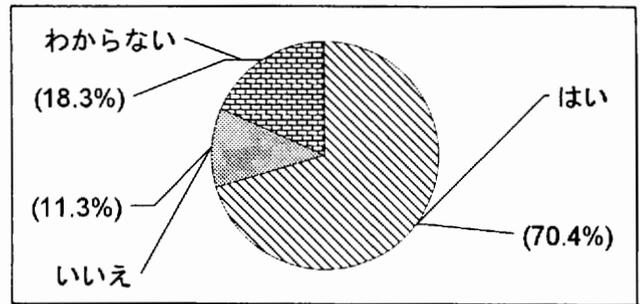
ウ 事後アンケート「現地学習後」(グラフ3)

「琉歌について興味があるか。」



エ 授業後アンケート (グラフ4)

「琉歌以外の沖縄文学も学習したいと思いますか。」



(生徒の感想)

「沖縄のことわざについて勉強したい。」
 「沖縄の昔話について知りたい。」
 「沖縄方言についてもっと勉強したい。」
 「もっと勉強してみたい。」
 「沖縄にもこんなにすばらしい文学があることにびっくりした。もっと詳しく習いたい。」
 「自分が知っている歌が琉歌だと知り驚いた。」

(考察)

約7割の生徒が「琉歌」を知らない6割が方言を使うことも聞くこともできない中で、校内にある「おもろ碑」のある前で学習をスタートさせることにより、琉球文学に興味・関心を高めることを試みた。授業後のアンケートで、「琉歌について興味があるか。」の質問に対して、「ある」「まあまあある」と答えた生徒があわせて8割もおり現地学習を取り入れることによって生徒の興味・関心が高まった。

(2) 作業仮説 2

琉歌の指導で自分の表現(音読・朗読)に役立てる視聴覚教材を活用すれば、琉歌の表現の仕方や文章の特徴・リズムに注意して、声に出して読むことができるだろう。

(結果)

視聴覚教材の活用後の生徒の変容

① ビデオ活用の効果

- ・歌が詠まれた当時の社会をビデオを見ることで具体的にイメージさせることができた。
- ・生徒の感想より「作者の生き方や生い立ちが理解できた。」「詠まれた琉歌の内容がよくわかった。」

② テープ活用の効果

- ・琉歌読み（8・8・8・6のリズムに方言特有の節をつけて読む）まで行う生徒が見られた。
- ・生徒の感想より「方言にリズムを与える読み方が楽しかった。」「テープを聞いて、節をつけた琉歌読みに自分も挑戦してみたいと思った。」

③ プレゼンテーションソフト活用の効果

- ・スマートボードの効果的な活用によって、琉歌の内容理解に役立てることができた。
- ・「歌の詠まれた実際の風景を写真で見ることができて、歌の内容がよくわかった。」「琉歌の句切れをパソコンを使って説明していたのでわかりやすかった。」

(考察)

- ① 詠まれた時代や背景・風景をビデオ・写真などの視聴覚教材を活用してイメージさせることで琉歌の鑑賞が深まり、読み取った内容に合わせて音読や朗読を工夫する姿が見られた。
- ② 生徒は、琉歌の表現の仕方や文章の特徴・リズムに注意し、工夫して読むことができた。
- ③ 音と映像、プレゼンテーションを使った視聴覚教材は、生徒のイメージを膨らませ、授業に積極的に参加させ、興味・関心を高めることができた。

(3) 作業仮説 3

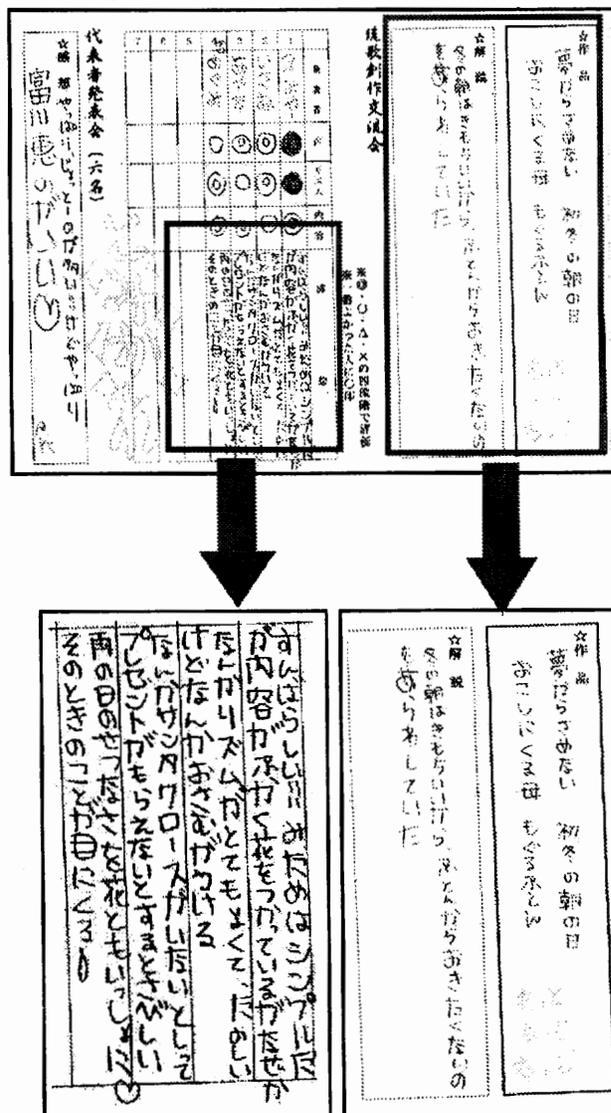
仲間の前で音読、朗読したり、創作琉歌を発表し、感想を交流し合うことで、お互いの意見や感想を広めたり、深めたりすることができるだろう。

(結果)

ア ペア読みやグループ読みでお互いの助言、アドバイスからさらに工夫して、琉歌を読もうとする姿が見られた。

イ 自分で創作した琉歌を仲間の前で朗読し合う交流する授業を取り入れた結果、感想シートから、お互いの良いところを認め合う姿が見られた。

(写真2) 感想シート



ウ 生徒の感想

- ① A君「創作琉歌の中に伝えたいことが込められているのを感じた。」
- ② B君「吉屋ちるの気持ちになって悲しげに音読しているのが伝わってきた。」
- ③ Cさん「琉歌読みのテープのようにリズムにのって読んでいる所がすばらしかった。」

(考察)

仲間の前で音読・朗読することで、意見や感想を広めたり、深めたりすることができた。

IX、研究の成果と課題

1 研究の成果

- ① 琉歌を教材化したことで、琉歌やその他の郷土文学に対して、興味・関心を高めることができた。
- ② 視聴覚教材（自作映像教材・琉歌読みテープ・プレゼンテーションソフト）を活用しての学習は、琉歌への興味・関心を高めることができた。
- ③ 琉球加留多大会は、琉歌の興味を高め、子どもたちが自ら楽しむ姿が見られた。
- ④ 生徒各自が8・8・8・6の形式にあわせて、意欲的に琉歌を創作し交流をもつことができた。
- ⑤ 数多い琉歌の中から中学生にふさわしい琉歌を選定し、教材化できた。
- ⑥ 現代風琉歌を祖父母や両親に聞いて、方言の形に直す生徒も何人かおり、学習が意欲的に発展した。

2 研究の課題

- ① 3学年を見通した琉歌の指導計画の作成
- ② 沖縄方言を使った琉歌を創作させる。
- ③ 消えつつある方言に対して、中学生に関心をもたせる指導の工夫。

おわりに

郷土文学「琉歌」を是非、教材として授業で扱ってみたいという思いが、この研究を始めたきっかけでした。

試行錯誤の中、スタートした研究でしたが6時間の授業を通して子供たちに琉歌に対する興味が湧き、意欲的に取り組みもうれしく思っています。

最後になりましたが、本研究所の大城所長、當間係長、山里主事には御指導・御助言ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

そして、研究所職員の皆様には大変お世話になりました。

授業実践において、琉歌読みテープ作成にご協力くださった仲西正子様、創作琉歌において、御指導いただいた沖縄国際大学名誉教授、屋嘉宗克先生には、ひとかたならぬお力添えをいただきました。感謝申し上げます。

更に、本研究所での研修の機会を与えて下さった、牧志校長先生、稲福教頭先生また、教科指導、川上宏先生、そして、浦添市教育委員の先生方、視聴覚教材の琉歌読みテープの作成にご協力頂いた仲西様、方言琉歌の御指導を賜りました、屋嘉教授様には、厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。共に研究を深めあい、支え合った仲間たちとの出会いも私にとって忘れられないものとなりました。

参考文献・引用文献・資料

- ① 郷土の文学編集委員会
「わかりやすい郷土の文学」
- ② 沖縄県高等学校教職員組合編（1978）
「高校生のための古典副読本沖縄の文学」
- ③ 垣花武信・東江八十郎著（1993）
「沖縄文学碑めぐり」
- ④ 野村朝常「やさしくまとめた沖縄の古典文学」
- ⑤ 青山洋二編著 郷土出版（1997）
「琉球の里めぐり」
- ⑥ 屋嘉宗克著（1995）
「琉球文学」琉歌の民俗学的研究
- ⑦ 石川盛亀著（1999）
「初心者のための琉歌入門」
- ⑧ 文部省（平成10年12月）解説一語編一
「中学校学習指導要領」
- ⑨ 北尾倫彦・金子守編集（2002）
「観点別学習状況 新評価基準表」
平成14年版 中学校国語
- ⑩ 島袋盛敏著（1978）
「増補 琉歌大観」